時局心話會

月報 | 2023 5月号

発行所：時局心話會　編集人：山本新太郎

〒110-0008 東京都台東区池之端2-2-8 3F
TEL 03(5832)7231　FAX 03(5832)7232　E-mail:shinwakai@shirt.ocn.ne.jp

主張

山本 新太郎
時局心話會

運送業界を変えたいという酒井氏の思い

会員である株式会社ナルキュウの酒井誠氏から相談を受けた。

「運送業界を変えたい。力になってほしい」

私は運送業界をよく知る、力になってくれる、行動力のある政治家を紹介した。

氏はその政治家と意気投合し勉強会を始めた。

その勉強会には政治家、官僚、経営者などが集まり、情報交換が交わされている。

氏は、国に携わる方々は、経営者が日頃感じている（現場の）業界の問題を理解していない。だから我々経営者は国に携わる方々に現場の生の声を伝えたいと氏は拳に力が入る。

私が見るに、氏は自分の会社の利害損得を抜きにして、業界が変わることを純粋に夢見ている。普通だったら、自分の会社の利益になることを政治家に頼むのだが、氏は違った。氏の周りには、氏の考え方に同調する経営者が集まりつつある。

氏のそういう姿勢、志を、私が紹介した政治家が力になって、一緒に業界を変えていこうという事になった。

それまで氏は政治家や官僚と接したことがなかった。しかし、この事をきっかけに政治家、官僚と頻繁に会うようになった。そればかりか、官僚に氏が業界が変わる問題について提案をするまでに至った。

ひょっとすると、氏は、自分の地位や名誉のためだけでうごめいている人たちとは違って、運送業界を純粋に変える人物になるのではないかと感じる。

氏は「今回が業界を変える最後のチャンスだ」と意気込んでいる。

このように業界を変えたい、社会を変えたい、国家を変えたいと純粋に思う人たちが出てこないと世の中は変わらない。

弊会では、内外の政治経済情勢を学ぶことで、大局的に物事を見ることを理念、哲学としている。経営者が大局的な講演を聞くことによって、自らの教養と知識を高め、業界、社会、国家を変えたいという思いにつながるようになれば、嬉しいことである。

つまり、経営者なるもの、自らの利害損得でなく、利他の精神で物事を考えてこそ、レベルの高い境地に達するのでないか。

そうしてこそ初めて、業界、社会、国家を変えたいと純粋に思う気持ちが出てくるのだと思う。

この利他の精神こそ、経営者が目指すべき道ではなかろうか。

弊会はその手助けになれればとの思いはつのる。

月刊トピックス

■鳥料理店「鳥開総本家」のプログレが調理ロボット年内導入

名古屋コーチンを使った鳥料理専門店「鳥開総本家」を展開するプログレは年内に調理ロボットをセントラルキッチンに導入する。セントラルキッチンも移転し、店舗導入に向けて自動化の効果を検証する。人手不足や将来の店舗拡大などに備える。

アーム型ロボット1台を導入し、関連システムを構築する。調理の対象は親子丼で、具材を入れるなど、盛り付け手前までの工程で検証する。盛り付けは人手になるため、半自動化の見通し。調理する時間や温度を調整しながら、出来栄えにむらがあるかどうかなどを見極める。

セントラルキッチンは現在の名古屋市東区代官町から同中区に移転する予定。テイクアウト向けの販売などを想定している。店舗へのロボット導入時期は現時点では未定。例えば、高単価の店は職人が調理し、ロボットに関心を持つ子供連れの客層が多い店に導入することなどを検討している。

外食業界では、人手不足への対応に加え、足元では食材や資材などのコスト上昇も重荷になっており、店舗運営の効率化がより重要な経営課題になっている。

管理本部の小嶋太知氏は「調理ロボットを店舗に導入すると、オペレーションが大幅に変わる。結局は自分でやったほうが早いという事態も想定される。セントラルキッチンでしっかり運用してから、店舗に導入したい」と話している。

同社の設立は2002年。鳥開総本家や「空飛ぶチキン食堂」などの業態を持ち、中部と関東の商業施設や地下街、アウトレットなどに十数店を出店している。(令和5年3月7日、中部経済新聞より)